

ICT 技術を活用した山形町 木質バイオマス熱・電気供給モデル事業調査検討業務 第三回検討会 議事録

日 時：令和4年2月4日（金）14時～16時

場 所：久慈市役所 3階 車庫棟会議室1 及び Teams 会議

出席者：大崎委員、蒲野委員、谷崎委員、澤口委員、谷地委員、駒田委員

※谷地委員、駒田委員は Teams にて参加

1. 資料

議事1～3 説明資料

最終報告書（案）

2. 検討委員会の内容について

大崎委員より挨拶の後、大崎委員を座長として議事を進行し、事務局より下記の流れで説明を実施し意見交換を行った。

【説明内容】

議事1. 進捗状況及び調査結果（第2回検討委員会の振り返り）

議事2. 最終報告書について

議事3. その他（先進事例紹介、久慈市の今後の取組み）

3. 議事

【議事1 進捗状況及び調査結果】

- ・前回委員会でのコメント確認とこれまでの進捗状況を事務局より報告した。進捗の詳細は議事2で合わせて説明することとし、委員の意見は特になし。

【議事2 最終報告書（案）について】

事務局より最終報告書（案）（未定稿）の説明を行った。

- ・委員会資料P6にバックアップという言葉があり、メーカーメンテナンスの時のバックアップという説明であったが、次頁のエネルギー収支グラフではCHPで半分くらい賅えない部分があり、バックアップという言葉は適切ではない。そういう理解でよいか（委員）。

→記載している事例はCHP1台の場合であり賅える部分は半分程度となっている。2台では全量とは言えないまでも、多くの部分を賅える。ご指摘のように純粋なバックアップだけでなく、不足分を重油で賅うが、熱需要の少ない時、自己乾燥有のパターンではチップ乾燥に熱を回せるので、熱の貯蓄で更に熱の利用率を上げられる（事務局）。

- ・2台になって夏場の熱需要の少ない時に余った熱の利用はどのように考えているのか（委員）。

→熱については乾燥チップ製造に利用し、電気については自己消費できない余剰分が多く発生するので、託送で売電を考えている（事務局）。

- ・乾燥チップを自前で作るとなるとコストが多くかかるが、その分も含めて採算ベースとなるよう考えること（委員）。

→承知した。事務局でもそのように考えている（事務局）。

- ・事業モデル IRR 試算結果のグラフでは CHP が 1 台でも 2 台でもあまり差のないグラフに見えるが、実際には 1 台と 2 台でかなり開きがあるということか（委員）。

→投資回収率のパーセントで見ると数パーセントの違いだが、全体金額など、金額自体で比較すると大きな違いはあると考える（事務局）。

- ・乾燥チップは購入するものと、システムの中で製造するものとあると思うが、その割合はどの程度か（委員）。

→委員会資料 P7 の左下グラフで CHP 1 台の場合の例を示しているが、黄色と緑の棒グラフを合わせたものが乾燥チップ製造に関わる部分となる（事務局）。

- ・CHP 2 台の運転で冬場の熱需要は賄えるだろうが、夏場の熱需要の少ない時をどうするのが問題だ。また、補助金が入ることが前提で事業を進めると、今回はいいが、新たに同じ事業を始める人達が使える仕組みになっていない。補助金が無くてもある程度の利益が見込める仕組みを目指して欲しい（委員）。

→残り 1 ヶ月の中で付帯設備のイニシャルコストを含め、さらなる検討を進める（事務局）。

→報告書を作り込むにあたって、委員の方々にも適宜ご提示するので、ご協力お願いする（事務局）。

【議事 3-① 先進事例のご紹介】

先進事例に取り組む事業者に参加いただき、事例紹介をしていただいた。

【議事 3-② 久慈市の今後の取り組み】

- ・熱版 PPA モデル事業を地域の方々と連携しながら進めていきたい。
- ・将来的には交付金、補助金等に頼らない仕組みとしたいが、まずはそれらを活用して、脱炭素のしくみの導入を実現したい。

【各委員ご感想】

- ・今回検討した結果が良い方向に向かい、久慈市内に普及することを願う。環境推進委員でもあるので、ゼロカーボン活動と合わせて進められればと思う（澤口委員）。
- ・大変お世話になった。現地の見学など様々な機会を得られ、また久慈市のこれからの考えも共有させていただいた。過疎地域にどうすれば人が残り、さらに人が集まるか、そこが一番の議論の論点と思いながら参画させていただいた。多くの方がこの取り組みに共感できるよう、残りの期間でブラッシュアップしていただきたい（谷地委員）。

- ・東北地方という概念からも小型バイオマスやチップボイラーなど先進的な取り組みは、全国

的にみて進んだ地域が増えてきているという事があり、久慈市もこうした取り組みで有名になるよう、微力ながら協力したいと思う（駒田委員）。

- ・山形総合支所所長という立場で参加させていただいた。いろいろ勉強させていただいた。林野率が高く、過疎が進行しているということで、逆に林野が多いことを利用して、過疎が止まれば、あるいはもっと発展していくため、皆様方にお力添えいただければと思う（蒲野委員）。
- ・林政を取りまとめる立場から参加させていただいた。地域資源が豊富な市なので、バイオマスエネルギーの利用が促進されることを願っている。視察においてはバイオマスに限らず、林政が抱えている課題についても確認することができ、非常に勉強になった（谷崎委員）。

— 以上 —